

バルの美食に酔いしれる

# スペイン、バスク地方の旅



Spain / Basque

(サン・セバスティアン、ビルバオ)

スペイン北部、フランスとの国境にも近いバスクは、独特の文化と風習が息づく地方。

「世界一の美食の町」として名高い

サン・セバスティアンと「アートの町」ビルバオ。

バスクを代表する2大都市の魅力を探る。



カウンターにピンチョスが並び、バスク地方の伝統的なバル

### ジェネラルインフォ in スペイン

時差: 日本より8時間遅れ。サマータイム実施期間(3月最終日曜~10月最終日曜)は7時間。

ビザ: 観光を目的とした滞在の場合、90日以内なら不要。

通貨: ユーロ(2024年5月現在€1=168.05円)

物価: 宿泊費や外食費など、日本とほぼ変わらないかやや高い。特に円安の昨今、物価は日本よりも高く感じる人が多い。

ベストシーズン: 春から秋にかけての4~10月が観光シーズン。ビーチで泳ぐなら、盛夏の7~8月がベスト。バスク地方はスペインの北部にあるため、夏でも比較的涼しくて過ごしやすい。

スペインのユースホステル情報:

<https://reaj.com>

詳細は「地球の歩き方 スペイン」

「arucoスペイン」へ→



## スペインを代表する避暑地 サン・セバスティアン San Sebastián

「ビスケー湾の真珠」と称されるサン・セバスティアンは、ブルーの海に面した美しい港町。昼はビーチでまどろんで、夜はバルでピンチョス三昧。これがこの町の過ごし方。



モンテ・イゲルドの丘から市街を見渡す



サーファーたちの姿も多い



ビーチ沿いには遊歩道がある

町のすぐそばにある  
ビーチでのんびり

町はコンチャ湾沿いに広がっており、小高い丘になったモンテ・ウルグルの南側にある旧市街が観光の中心。石造りの優美な旧市街の町並みは、中世にはサンティアゴ巡礼路の宿場町として栄え、19世紀にはハプスブルク家の王妃マリア・クリスティーナの保養地となり避暑地としてヨーロッパ中に名をはせた。

湾に沿ってコンチャ海岸というビーチがあり、夏には海水浴を楽しむ人々にぎわう。町に到着したら、まずは西にあるモンテ・イゲルドの丘に上り、美しく湾曲する海岸線を眺めよう。そのあとはビーチ沿いをゆっくりと歩いて旧市街へ。博物館や教会を回ったりと思いに過ごしたい。



19世紀に建てられた市庁舎

夜になったら  
旧市街のバル巡り

日が沈んだら、旧市街のバル街へ。ここからがサン・セバスティアンの本当の楽しみと言っても過言ではない。旧市街にはたくさんのバルが密集し、食べ歩きを楽しむ人たちがいっぱい！あらかじめチェックした店に行ってもいいし、町歩きの最中に気になった店にふらりと立ち寄ってみるのも面白いだろう。

スペインでは、ひとつのバルに長居するのではなく、いくつかのバルをはしごするのが粋な楽しみ方。ピンチョスというおつまみと一緒に、アルコールを思う存分味わって。バル以外にもミシュラン3つ星を獲得したレストランが10軒以上もあるなど、美食の町として知られている。



ビールやワインで「サルー(乾杯)」!



夜の町をバルを求めて歩こう



バルのカウンターにはピンチョスがびっしり!



屋外にも席がある店も

バスク地方の中心都市

# ビルバオ

Bilbao

バスク地方の産業と文化の中心として栄える町、ビルバオ。スペインのモダンアートの拠点でもあるグッゲンハイム美術館を要する芸術都市としても知られる。

## 川沿いを歩いてモダンアートに触れる

ビスケー湾に注ぐビルバオ川の両岸に広がる町。川に面したシルバーの斬新な建物が、グッゲンハイム美術館だ。ニューヨークの同名美術館の分館として1997年にオープン。以来スペインにおけるモダンアートの殿堂としてその名をとどろかせている。南にはビルバオ美術館もあり、旧館では12~17世紀のスペイン絵画を、新館では現代美術の作品を展示している。ビルバオ川の河口には、世界最古の運搬橋・ビスカヤ橋がある。全長約160mの鉄橋で、橋桁からつり下げられたゴンドラで橋を渡れる。ゴンドラは地元の人々の足として使われているほか、観光客にも大人気。町の中心からは地下鉄で20分ほどなので、アート鑑賞と一緒に1日で回ることができる。



フランク・ゲーリーの設計したグッゲンハイム美術館



建物前に置かれた「パピー」。美術館のマスコットの存在



夜にはライトアップされる

## 旧市街のバルで創作ピンチョスを堪能!

ビルバオの夜の楽しみもまた、バル巡り。町はビルバオ川を挟んで西が新市街、東が旧市街と大きく分けられる。グッゲンハイム、ビルバオの両美術館があるのは新市街。旧市街には商店や市場が点在しており、当てもなく散策するのが楽しい。

バルが集中するのは旧市街のヌエバ広場一帯。伝統的なピンチョスのほか斬新な創作ピンチョスを提供する店も多く、バルをはしごするたびに新たな味に出合えるのがうれしいところ。見た目がユニークなピンチョスもあるので、写真に撮ってSNSにアップするのもおすすめです。



昼から営業のバルも多い

運河に沿って歩いてみるのもおすすめ



1893年に開通したビスカヤ橋



新市街の中心、モユア広場



そぞろ歩きが楽しい旧市街

## 美食の町でバル巡り



### バルとは何?

バルとはスペイン版の居酒屋で、主にカウンターがある飲食店のことを指す。カウンターにはおつまみとなるピンチョスがズラリ。

### バスク地方の名物料理

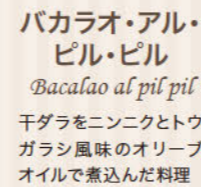
海に面しているだけに、新鮮なシーフードを使った料理が豊富。なかでも「バカラオ」という特産の干ダラを使ったものが有名。



チピロネス・エンス・ティンタ  
Chipirones en su tinta  
軟らかなヤリイカのイカスミ煮込み。ライスが添えられることが多い



トルティーリヤ  
Tortilla  
具材がたっぷり入ったバスク風オムレツ。ふわりとした食感が特徴



バカラオ・アル・ピル・ピル  
Bacalao al pil pil  
干ダラをニンニクとトウガラシ風味のオリーブオイルで煮込んだ料理

### ピンチョスのお供はコレ!

ピンチョスと一緒に頼みたいのは、バスク伝統の微発泡ワインのチャコリやリング酒のシードラ。



ピンチョスとの相性抜群

チャコリは上から勢よく注ぎます!



青トウガラシにオリーブ、アンチョビを刺したヒルダ Gilda



濃厚なフォアグラを使った贅沢ピンチョスのフォイエ Foie



ハモン・セラーノ Jamón Serranoという生ハムがたっぷり!



スペイン風コロケットのクロケッタ Croqueta。具はさまざま



ガリシア名物のタコ料理、プルポ・ガリェーゴ Pulpo Gallego



スペインでは、シラスも食べる。ピンチョスでも人気メニュー

スペインに来たら、絶対に行きたいのがバル! 各町に必ずあるが、バスク地方はその本場といわれる。バルは、数軒はしごするのが通なのだ。



### <おすすめのバル>

サン・セバスティアン

ボデガ・ドノスティアラ  
Bodega Donostiarra

1928年に創業した老舗のバル。伝統的なバスク料理をベースとしたピンチョスが味わえる。観光客のほか地元の人にも人気がある。

住所: Peña y Goñi 13  
TEL: 943 011 380  
URL: www.bodegadonostiarra.com/en

ビルバオ

グレ・トキ  
Gure Toki

ヌエバ広場の一角にある人気店。カウンターには、見た目もきれいな創作ピンチョスが並んでいる。数々の受賞歴がある実力派。

住所: Plaza Nueva 12  
TEL: 944 158 037  
URL: www.guretoki.com

### バルの利用方法

入店からピンチョスの注文、お会計まで、バルの基本的な利用方法はこちら。実際に現地に行く前に知っておくと安心。

STEP 01 気になった店へGo!  
予約は基本的に不要。テーブルでもカウンターでも空いている席に座ろう。



STEP 02 ピンチョスをオーダー  
オーダーはセルフ。カウンターに行き好きなピンチョスやドリンクを選ぶ。



STEP 03 着席、ピンチョスを味わう  
頼んだドリンクとピンチョスを受け取ったら、席に戻り思う存分に味わって!



STEP 04 会計を済ませて退店  
食べ終わったらレジで会計。基本的に後払いだが、料理の受け取り時に払ってもOK。

### ピンチョスとは?

パンの上に野菜を乗せ、楊枝や串を刺したものがピンチョス。片手で食べられるフィンガーフードで、代表的なメニューはこちら!

日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

こどもはおとなに。  
おとなはこどもに、  
なれる場所。



# Hostelling Magazine vol.37



## Cover Interview

渡部陽一

まずは“ひとつだけ”でいい。  
相手のことを知ってみることから、  
変えていこう。

P.02



## Youth Hostel Pick up

乗鞍高原温泉  
ユースホステル

「人と人のつながり」を紡ぐ  
標高1,500mの温泉宿

P.08



## Hostelling Magazine

× 地球の歩き方

パルの美食に酔いしれる  
スペイン、バスク地方の旅

P.12



鉄道写真家 櫻井 寛  
「列車で行こう！」

P.16



松島むうの  
晴れときどき旅びより

P.18



## YH-GUIDE

ユースホステルガイド

北海道 / 青森県 /  
岩手県 / 宮城県 /  
秋田県 / 山形県

P.20



Hostelling Magazine vol.37

まとめてダウンロード

※本誌の情報は2024年6月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 真

TEL. (03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。